

特集：大学説明会

学生による大学説明 —交換留学を含んだ場合の大学4年間—

大澤 陽樹（東京大学大学院 新領域創成科学研究科修士課程）

筑波大学生物学類には、学生に親切的な交換留学制度があり、これは生物学類の一つの魅力だと私は考えています。当交換留学制度は、原則として大学3年の9月からおよそ9ヶ月間、イギリスのマンチェスター大学の研究室に所属することになっています。多くの学生は、整ったサポート体制や留学している間の単位の取得などの優遇処置で、同級生徒ともに4年間で卒業することができます。留学というと、1年間休学をして海外へ行くイメージがありますが、生物学類ではその心配がありません。この留学制度では毎年3名まで留学枠があるため、誰にでも挑戦するチャンスはあり、決して高い壁ではありません。なので、私には関係ない、と決めつけずに、記憶の片隅に置いてくださると幸いです。それでは、私が留学を意識し始め、留学へと行き、帰国し、卒業するまでを、簡潔に説明していきたいと思います。



筑波大学は、お世辞抜きで素晴らしい環境です。何よりも、多くの学生が一人暮らしをしているため、毎日が修学旅行のような生活は貴重だと思います。また、私自身生物学が好きで入学してきたため、一日中生物学を学ぶことは非常に刺激的でした。



しかし、それは突然私を襲うことになりました。「目標」です。友達と、「俺は研究者になる」「私はお嫁さん」、といったお互いの将来の目標を話しているとき、私には目標がないことに気がつきました。目標もなく、ただ大学を卒業するために講義を受け、実習に行きました。趣味が旅行なので、ひたすらバイトをし、お金を貯め、旅にでました。心は満たされているのですが、時に将来が不安になることが多くなったのがこの時期でした。



そんなとき、ふと脳裏をよぎったのが、留学制度でした。この情報を知ったのは、この入試説明会です。当時の私にとっては縁のない話でしたが、こんな形で役に立つとは思っていませんでした。目標を持っていない私にとって、留学は非常に魅力的であり、留学すれば何かかわるのではないかと、そういった気持ちで留学にチャレンジすることを決意しました。またマンチェスター大学は、世界の論文執筆数でも上位にランキングしており、その数はほぼ東大・京大とも変わらないということも魅力的でした。

もちろんただで留学はできません。英語の試験である一定以上の点数をおさめなければ留学する資格をいただけないのです。当時の私は、英語が苦手な約1年間努力し続けた結果、見事に英語の成績が上昇し、留学する権利を得ることができました。

さらに一番私を悩ませたのは、友達や家族と1年近くあえなくなることでした。前述したように、筑波大学はとても楽しく、その最も大きな要因は友達です。英語の試験・1年間の空白の時間、それらを対価として支払い、ついに留学へいくことを決意したのが、大学3年の春でした。



ついに、3年の夏、日本を去ることにしました。前日の夜は、友達に囲まれ楽しい夜を過ごしましたが、同時にとても寂しく、不安だったことを覚えています。しかし、飛行機のフライト時間は待ってくれず、ついにイギリスへと飛びたちました。



まず、留学最初にぶつかった壁は語学の壁でした。いくら日本で勉強しても、いざ使うとなると全く使えない、というのが現状でした。日常会話すらできない私は、すぐさま語学学校へと通うことを決意しました。この判断が正しかったのか、1ヶ月後には英語で電話ができるほどになりました。何事もチャレンジしてみれば、なんとかなるものです。ですから英語ができなくても心配しないで下さい。



英語も喋れるようになり、ついに研究生活が始まりました。しかし、再び大きな壁が私の前に立ちはだかりました。それが学問の壁です。それまで、研究というものを全く知らなかった僕が、突然研究室へ所属することは、アルファベットを知らずに英語を習うようなものでした。

論文の読み方、実験系の立て方、新しい分野の勉強、アカデミックな論文の書き方、などなど研究を始めるまでの準備が非常に大変でした。しかし、マンチェスター大学では多々留学生が在籍するため、非常に丁寧に教授いただき、無事論文を英語で書き上げることができました。



留学では、研究の仕方だけではなく、英語も習得することができました。しかし、何よりも得難いものは、世界を知れた1年間だったことです。同年代の世界中の学生たちが、私の隣で勉強しているというのは、最高のモチベーションになりました。また、世界中に友達ができ、現在でも連絡をとりあい、先日はタイで再会してきました。この年で、世界中の人々の価値観・文化・性質を肌で感じることは本当に priceless な単位となって私の心の中におさめられました。

最後になりましたが、私は留学後、進学を選び現在は修士として勉強しています。留学を通じ、将来の目的がはっきりみえたかという点、残念ながらまだわかっていません。しかし留学を通じ大きく私の人生観が変わったことは事実です。皆さんも、もし人生に迷われたときは、生物学類の留学制度を思い出して、是非挑戦してみてください。

Communicated by Shinobu Satoh, Received August 17, 2007.